

昭和48年8月創刊 昭和49年2月7日第三種郵便物認可 月刊「武州路」7月号 平成22年6月20日発行 通巻443号 毎月1日20日発行

月刊 **武州路**<sup>®</sup>  
THE BUSHU-JI

埼玉を遊ぶ・食べる・知る情報誌  
日本タウン誌協会・関東タウン誌会会員

**10年7月号**  
(通巻443号)



**特集** **関東ふれあいの道 Part3**

対談／絵と幼稚園理事長の2つの顔 稲垣 博正

随筆／川柳のころろ・石川蝶平 / 映画の魅力・原田孝三

# ひきだし絵本「いきる」

さいたま市の加藤始さんの作品が好評

昨年9月18日から10月3日まで、東京展に出品された作品が写真の「いきる」だ。東京展とは1975年に表現の自由と発表の自由を求め、

決して権威主義に屈することのない創造の場をめざして結成された美術の祭典。ここにさいたま市在住の加藤始さんの作品「いきる」が初めて

展示された。

## ■「ひきだし絵本」って?

写真を見ればおわかりのように、引き出しの中に絵本が入っている。上にはなんとも懐かしい雰囲気の写真がセットされているのだ。なぜこのような形になったのだろうか。

東京展の審査に通過した加藤さんだったが、立体造形ではなく絵本の部で出品しなければならなかった。しかし長いこと造形を手がけてきた加藤さんにとって、絵本だけでなく造形も捨てがたい。そこで考えだされた方法がこの「立体ひきだし絵本」という方法だったのだ。

## ■親子合作

加藤さん本人も造形は手がけていたが、母親の経験はもつと長かった。昔は今のようによく豊富に玩具があったわけではない。自然と自分で作る習慣が身に付いたという。しかもアトフラワーなど様々な創作活動を経験してきたからこそ、加藤さんの作品にもその力を発揮することができたのだろう。この作品では絵本と引き出し本体、人形は加藤さん本人が担当し、特に樹木は母親が制作したのだという。



■作品「5x10」10x10

もちろん前ページ下の書籍としても制作されたが、引き出しの中に入っているのは、開きやすく工夫された別のものだ。この作品は昨年1月に当時住んでいた足利でアイデアを思いついたという。本を包むカバーの部分大胆に引き出しにして、上には中に入っている絵本の1シーンをミニ造形作品として乗せた。引き出しの上の世界は小さいが、それを引き出しの中の本によって大きくできたのだ。

なお、「いきる」については立体ではない普通装丁の本が埼玉県立図書館に所蔵されている。

■反響がた  
くさん

東京展の周は作品の脇にノートを置いて、見学者に自由に書き込んでもらった。たくさん書き込みがあったが、印象的なものを紹介しよう。

「ドイツに住んでいて、今日にいます。とてもなつかしい、心がいやされる作品です。私もバステルの絵を描いています。人がいやされる作品を作っていけたらと思います。」

「最後までページをめくってしまいました。ウンウンそうだと思いつつ……。土になってしまふのはちょっと衝撃的だったけど、また芽が出て嬉しい気分になりました。」

「とってもよかったです。いろいろあるけど前向きにがんばってよりみちもしながら、あるいはいきます。」

「立体もとても上手です。洋服も木も小鳥も本当にすばらしいです。」

など、たくさん反響があった。



【上の写真】ひきだし絵本は今までに3作品あるが、その第1作目が、加藤始単独制作の「自由」と言う作品だ。

第36回展について

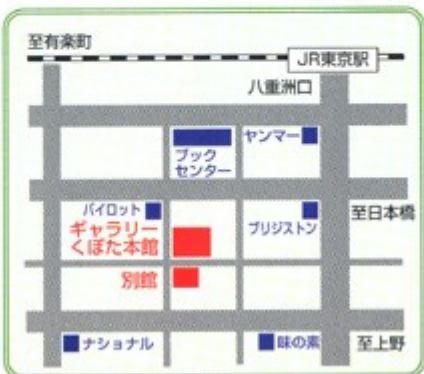
今年も第36回東京展が開催される。加藤さんの作品「みんなでいっしょ」は絵本部門に展示される。ぜひ見に行っはいいかだろう。なお、本館は一般作品を展示している。

【XET】会場／ギャラリーくぼた別館

所在地／東京都中央区京橋2の10の

9 電話／03（35663）0007

会期／7月6日（火）〜7月17日（土）



※加藤さんへの連絡はメールで。katoppj@gmail.com

